

「地域との関わりを通して、ともに学び合い、高め合う児童の育成」を目指しています。



あいはら

2026. 1. 8

町田市立相原小学校
校長 百田 明弘
学校便り NO. 9



☆「夢の実現」☆

校長 百田 明弘

新しい年が始まりました。新年、相原駅前で行われた「相原プロレス」を観戦しました。本校の子供達や卒業生、たくさんの地域の方々が本校の校歌を歌ったり、「相原！」と声をあげたりする様子に地域の力を感じました。さて、今年は世界的なスポーツ大会が開かれる年でもあります。注目しています。

★冬季オリンピック: 2月6日～22日、ミラノ・コルティナ（イタリア）。

★WBC ワールドベースボールクラシック 3月6日～17日 プエルトリコ・日本・アメリカ

★FIFA サッカーワールドカップ: 6月11日～7月19日、アメリカ・カナダ・メキシコ。

★アジア競技大会: 9月19日～10月4日、愛知・名古屋（日本）。



日本や地元出身選手の活躍はもちろん、様々な国の選手たちが見せてくれるプレーを楽しみにしています。

最近、世界遺産の勉強をしているのですが、有名な世界遺産の一つであるスペイン・バルセロナの建築家アントニ・ガウディ設計の教会「サグラダファミリア」が2026年に完成するのではと言われています。

1882年着工、150年近くたってもまだ世界中からの寄付で建設中ですが、その間、一度も死亡事故が起きていないそうです。その理由が、教会で働く労働者の子どものために教会の中に小学校を建てたことにあるそうです。親にとって子供が教育を受けられる事ほど幸せなことはありません。ガウディは未来の若者たちが少しでも希望を持って生きられるようにと願い、小学校を建てたそうです。改めて、相原小学校も保護者や地域の方々にとっても安心できる存在である「小学校」であり続けなければいけないと考えました。

話は変わりますが、先日サッカー日本代表監督の森保氏の講演を聞く機会がありました。小学校の時は野球少年だったこと、高校生の時は勉強が苦手だったけれどサッカーを頑張ったことなど聞くことができました。また「もっと英語を勉強しておけばよかった」「国語をしっかりやっておけば相手に上手に言葉で伝えられたり、文章で表せたりできたのに」と話されました。「選択肢を多くしておくことが大切」ということです。現在の日本代表の選手は、英語をはじめ語学を熱心に勉強しているそうです。これは世界で活躍するために不可欠だからです。「スポーツの道に進むためにはスポーツだけ」ではダメということです。

そんな森保氏の今の夢は「2026年ワールドカップ優勝！」ということでした。相原小でも夢に向かう子供たちを育てています。夢を実現させるためには、読書も音楽も運動も勉強も給食も、得意でなくても将来、多くの選択ができるようにするためにチャレンジすることが大切です。全教職員で支援していきます。

2026年開校152年を迎える相原小学校。児童はもちろん地域と共に、馬のように「飛躍と前進」、うまくいく1年になるような教育活動を進めていきます。本年もご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。

相原歳時記（午年・うまどし）

◆◆◆地域、季節、人物の話題を伝えるミニコーナー◆◆◆

【馬頭観音】【タウンニュース 2014.1.1 より】

慶長元年（1596年）に大戸観音堂が建立、境内に町田で一番古い馬頭観音（宝暦2年 1752年）がある。馬頭観音は六觀音の一つ。「町田の馬頭観音は優しい温和な表情が多い」「製作時期は幕末から明治にかけてが多く昭和時代まで続いており、また個人で建立したものが多い。そのころの生活の中で馬は、生活にとても必要な存在だったのだろう」という。信仰というより、生活を共にした馬に対して『供養』という意味合いの方が強かったのだろう。

【相原の秣場[まぐさば]】【相原共有地沿革史、「あいはら」相原小学校創立百年記念誌（昭和50年）より】

秣場は馬草場とも言われ、肥料、燃料、飼料、屋根葺の材料の草を取る場所で、村民、周辺村によって共有の場所を示す。「入会いりあい」ともいい、七国、御殿は上中下相原に宇津貴、大船を加えたら村の「村々入会」であった。町田市の地図をみると御殿峠まで突起のように相原が伸びているのは、この秣場だった所です。

ここをめぐっては、相原村と鎌水村との間で境界線をめぐって紛争が起きていた。相原村の諏訪加賀は何度も鎌水村との折衝を行ったが物別れとなり、相原に有利な境界を示し実地検証を役人に願い出た。役人は加賀が主張する境界を認めたが、加賀に向かって「おまえは山林が欲しいか、命が欲しいか」と問うた。加賀は「無論、山林が欲しい」と答え、その結果、境界は加賀の主張通り、加賀は杉山峠で処刑された。

この峠一帯は、元相原の共有地であった。この共有地は町田市と八王子市の入り組んだ地形になっていて、秘められた歴史を物語っている。相原西端大地沢の次に字御殿の地番が付けられている事と、七国六町歩余の共有地があったという事である。それは、相原農民にとっては斗争の場で、死ぬか生きるかの問題であった。草刈り場を持たない農業は、飼料なしで、作物をつくることであった。無力な代官はこの争いに対して何の打つ手もなく、最後に役人の面目を保つ為に諏訪道斎を打ち首にして解決を図ったのである。彼の位碑が行昌寺の位碑堂の中に忘れられた様に置かれてある。刻まれた文字がそのまま相原の秘められた、共有地の歴史であるかの様に。

令和の今の相原には豊かな自然環境を活かした乗馬クラブがあり、多くの人々が乗馬を楽しんでいます。これは、歴史的な背景とは異なりますが、現代においても馬と関わる文化が地域に残っているとも言えます。